

# インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

| 大学名（フリガナ）     | 学部名（フリガナ） | 所属ゼミナール名（フリガナ） |
|---------------|-----------|----------------|
| フリガナ）メイカイダイガク | フリガナ）ケイザイ | フリガナ）オカムラゼミナール |
| 明海大学          | 経済        | 岡村ゼミナール        |

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

| チーム名（フリガナ）   | 代表者名（フリガナ）     | チーム人数<br>（代表者含む） | PPT 内動画<br>（有・無） | 動画使用<br>スライドページ |
|--------------|----------------|------------------|------------------|-----------------|
| フリガナ）オカムラチーム | フリガナ）ダン フォン リン | 11 人             | 無                | 無               |
| 岡村チーム        | ダン フォン リン      |                  |                  |                 |

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

| 発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート） |
|----------------------------------------------------|
| 無                                                  |

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

| 研究テーマ（発表タイトル）    |
|------------------|
| ポイ捨て防止による海洋プラの削減 |

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

ペットボトルや家庭用品、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。便利な一方、ポイ捨てなど不適切に処分されたプラスチックゴミが海に流れ、海の環境を汚染し、海洋生物にも悪影響をもたらす。2050 年には海のプラスチックごみが海洋生物を上回るといわれている。そうしたプラスチックごみの中でも、最も大きな原因となっているものがタバコのポイ捨てによるフィルターゴミである。

そこで、私たちは、タバコのポイ捨てが海洋生物に悪影響を及ぼしていることを喫煙者、とくに 40 代から 50 代の男性に理解してもらうことにより、タバコのポイ捨てを減らし、海の生物を守ることを目的としている。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在、世界の海には、およそ 1 億 5000 万トンのプラスチックごみが存在している。さらに、毎年 800 万トンのプラスチックゴミが新たに海に流入しており、2050 年には海洋生物の数より海洋プラスチックごみの数の方が多くなると予測されている。

こうした海洋プラスチックによる海洋生物への被害はすでに多く出ており、海洋生物の絶滅危惧種等 700 種類のうち、92%が

海のプラスチックゴミによるものであると言われている。典型的には、ジュゴンや、ウミガメがプラスチックを餌と間違え、消化しきれず満腹と勘違いし、餓死する例などが報告されている。

世界的な海洋プラスチックゴミの分布をみると、アジア地域で特に多く、日本の排出量は世界で 30 位であるが、一人当たりの海洋プラスチックゴミ排出量でみると、世界で 20 位の米国と比較しても多い。

このような状況に対して、世界各国で取り組みが行われている。たとえば、2019 年 6 月に行われた G20 においても、3R（Reduce、Reuse、Recycle）の徹底を提唱している。日本の環境省においても、プラスチックゴミの回収や適正処理の徹底、ポイ捨てなどによる海洋流出の防止、ポイ捨てや不法投棄されたプラスチックごみの回収の徹底が計画されており、今後の改善が期待される。

しかしながら、これらの国家レベル、国際レベルでの対策は提案されたばかりであり、その成果が出るまでにはいくらかの時間を要するであろう。そこで、「今」、私たちにできることはないだろうか、それが私たちの活動の出発点である。

### 3. 研究テーマの課題

プラスチックゴミの削減については、ペットボトルやビニール袋の利用削減などにより、国や自治体などでさまざまな対策が行われている。これらの活動は極めて重要なものであるが、実際に最も海洋プラスチック汚染に影響を与えているのは、タバコのフィルターであるという調査結果がある。世界の海において、タバコは 32 年間にわたって 6000 万本見つかっており、さらにタバコのフィルターは 10 年程度有害物質を漏出する。タバコが海洋汚染の原因となるのは、街中でポイ捨てされたタバコが雨などにより排水溝に流れ込み、河川を経て海へと至るからである。

これらのことから、海洋プラスチックゴミの削減においては、タバコのフィルター対策について考える必要がある。このタバコのポイ捨ては、たばこのライフサイクル（生産、使用、廃棄）の各段階において対策をとる必要があり、代替フィルターの開発（生産段階）やボランティア等による清掃作業（廃棄段階）が行われている。

しかし、代替フィルターの実用化は根本的な問題の解決にはつながるものの、時間がかかるという問題があり、ボランティア等による清掃作業については、継続的にボランティアを募ることの問題に加え、対症療法的で根本的な解決に至らないという問題がある。

そこで私たちは、根本的な解決につながりやすく、また比較的に短期の効果が見込めそうな「使用段階」に注目することにした。

使用段階についての対策として、ポイ捨て禁止条例対策や路上喫煙禁止条例など、伝統的な規制的手段による取り組みが行われているが、巡回作業員の人件費がかかるだけでなく、隠れてポイ捨てをする可能性を否定することができず、解決策としての効果は限定艇的である。

ノーベル経済学賞を受賞した行動経済学に基づくナッジ理論では、伝統的手法よりもナッジ手法の方が効果的であるという研究結果もあり、伝統的な手法では難しい面もある。実際の例として、イギリスにおいてひときわ目立つ投票型吸い殻入れが導入され、高い効果を得ている。

こうした手法を日本でも導入できるか否かについて、私たちは浦安市役所にインタビューを行ったが、灰皿を路上に設置することについては、許可をとることが難しいことや、回収費用の問題があることが指摘され、そのまま導入することは極めて難しいということが分かった。

また、同じくナッジ手法によってポイ捨てをなくそうとする例として、日本の J T によるポイ捨て禁止広告がある。これらはマナー広告として大変高い効果を持っていると考えられるが、しかし、私たちが確認した 70 超の広告はすべてマナー広告であり、たばこのポイ捨てによって具体的にどのような悪影響があるのかわかるものはなかった。

そこで、私たちは、喫煙者に対してタバコのポイ捨てが環境汚染につながることを目で見えてわかるような手法をとるべきだと考えた。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちの目的は、喫煙者に環境汚染の悪影響をわかってもらい、そのうえでのポイ捨て削減を狙うことである。

日本の喫煙者の割合は 30 代から 50 代が多く、またポイ捨てについて私たちがアンケートを行った結果、40 代から 50 代の男性喫煙者によるポイ捨てが多いことが分かった。そこで私たちは、40 代から 50 代の喫煙男性をメインターゲットとすることにした。

第 1 子出生時年齢を見ると、およそ 33 歳である。したがって、私たちの対象とする 40 代から 50 代の人たちは、小学生の子

供がいるか、育児経験がある人たちであり、場合によっては世代をまたいで孫のいる世代だと考えられる。

そこで私たちは、タバコのポイ捨てがなぜ海洋汚染につながるのかを小学校ないし学童で授業を行い、小学生にポスターを描いてもらったうえで、それを喫煙所に掲示することを考えた。ポスターを喫煙所にはり、喫煙者の心に海洋汚染の悪影響について訴えるのである。実際に、小学生が描いた絵をみて禁止行為が減少したという事例がある。

しかし、私たちの調査によると、ポイ捨ては路上が多い。したがって、路上でのポイ捨てを削減するための方策を考える必要がある。路上でのたばこのポイ捨てを削減するには携帯灰皿の活用が効果的だと考えられるが、「アイシェア rTYPE」の調査によれば、携帯灰皿の使用頻度は、頻繁に使う人が 28.6%と低い。このため、携帯灰皿の使用頻度を高めるための施策が必要であると考えられるが、私たちは、そのための手法として「ストーリーマーケティング」を用いる。

ストーリーマーケティングは、物語性を加えることによって商品の採用を消費者に促すものである。私たちは、たばこのポイ捨てが海洋汚染につながることを、またそれがメインターゲットの関心である子供たちも関心をもっており、そのポスターが喫煙者の多く集まる喫煙所に掲示されていることを利用する。

すなわち、小学生が描いてくれたポスターをイラスト化し、携帯灰皿に印刷し、喫煙所に掲示されているポスターの横に設置するのである。また、財務的な負担を軽減するため、携帯灰皿は無料配布する。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、ポイ捨ての実態を把握するため、新浦安駅前や浦安駅前、SNS によるアンケートを行った。サンプル数は 522 である。

また、ポイ捨て行為の実態を調査するため、江戸川区役所と浦安市役所の訪問をした。江戸川区役所では花火大会でのポイ捨て対策について伺うことができた。実際ポイ捨て対策は行われていて、ポイ捨て問題というよりもゴミ箱の数が足りていないとのこと、花火大会参加者はゴミ箱に捨ててくれるが、ゴミがあふれてしまいゴミ箱の周りにゴミを置いていくとおっしゃっていた。

また、ゴミ箱を増やすという提案をしたら、参加者の歩行時に危険があるため設置数を増やすのにも限界があり、ゴミ箱を設置するためには許可を取るが必要であり、回収コストもかかるという回答を得た。

現在、市の小学校および学童にアプローチしており、交渉中である。また、浦安市役所とも、喫煙所の利用について交渉中である。さらに、大学の至近に立地する商業施設に対してもアプローチする計画である。

## 6. 結果や今後の取り組み

小学生への授業やポスター作製は、今現在アボをとっている段階であり、今後、そのポスターを使い喫煙所での貼付、携帯灰皿の作成へつなげる。携帯灰皿の作成については、明海大学主催の夢プロジェクト(学生の夢を応援するプロジェクト)に参加し、優勝できればその賞金で実践するつもりである。できなければ、スポンサーを募集する予定である。

## 7. 参考文献

主要な参考文献および資料

- ・ P8 WW ジャパン 2018 年 10 月 16 日「海洋プラスチック問題について」  
<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html> 2019 年 8 月 25 日
- ・ P9 日本経済新聞 2019 年 8 月 19 日「なぜ今、脱プラ運動？海洋流出 5 兆個問題視」NTT  
<https://www.ntt.co.jp/kankyo/column/earth/no4.html>、2019 年 8 月 25 日
- ・ P10 環境省「海洋プラスチック問題について」2018 年 7 月 2 ページ 2019 年 8 月 7 日
- ・ P11 G202019JAPAN[https://g20.org/jp/topics/plastic\\_description.html](https://g20.org/jp/topics/plastic_description.html) 2019 年 8 月 28 日  
環境省「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」2019 年 6 月 7 日 2019 年 8 月 28 日
- ・ P13 ocean conservancy  
<https://www.nbcnews.com/news/us-news/plastic-straw-ban-cigarette-butts-are-single-greatest-source-ocean-n903661> 2019 年 9 月 12 日
- ・ P14 NPO 法人海さくら「海のピンチは町が救う」2019 年 5 月 8 日
- ・ P15 海のプラゴミ、ストローよりもタバコの吸い殻の方が問題！？  
[https://lessplasticlife.com/marineplastic/source/cigarette-butts\\_not-plastic-straws/](https://lessplasticlife.com/marineplastic/source/cigarette-butts_not-plastic-straws/) 2019 年 9 月 22 日

・P17 Dedicated to solving the global problem of cigarette butt pollution <https://www.green-butts.com/>

2019年9月10日

・ P21 路上喫煙禁止条例・歩きタバコ禁止条例がある自治体  
[www1.sumoto.gr.jp/shinryou/kituen/walkingsmoking.htm](http://www1.sumoto.gr.jp/shinryou/kituen/walkingsmoking.htm) 2019年9月2日

・P22 Shlomo Benartzi et.al, Should Government Invest More in Nudging? Psychological Science, vol28,  
2017 2019年9月24日

・P29 チーム岡村による調査

・P30 都道府県別統計とランキングで見る県民性 <https://todo-ran.com/t/kiji/14295> 2019年9月24日

・P31 放置自転車大幅削減の成功事例 [http://blog.livedoor.jp/trike\\_shop/archives/1816443.html](http://blog.livedoor.jp/trike_shop/archives/1816443.html) 2019年9月19日

・P33 チーム岡村による調査

・P34 アイシェア rTYPE によるリサーチ <https://japan.cnet.com/article/20381570/> 2019年8月25日

#### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合は同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

**↑ ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**